

世界で一番美しい言葉を

安達 千紗

「命は大切だ。命を大切に。そんなこと何千万回言われるより『あなたが大切だ』誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける」この言葉は2005年、多くのメディアに掲載された公共広告機構、現在のACジャパンの広告作品のものである。

人の命は儂いもので、それは常識として「命を大切に」と言われる現代も、言われなかった戦時中も同じだ。昨今、平和学習の感想文に「ピンとこない」「よく分からない」と書く学生が増えていると聞く。確かに特攻隊の残酷さや原爆の悲惨さというものは、目で見なければ分からないと思う。

実際、現代を生きる私達が直面した多くの苦難は、未来を生きる人々には理解しづらいものだろう。私の身近なところで例を挙げるならば、2018年の西日本豪雨と2020年の新型コロナウイルスの感染拡大だろうか。豪雨は見慣れた道を土砂で埋め、新型コロナウイルスは世界を混乱に陥れた。そんな曇天に覆われたような日々を知らずに育つのだ。

最初に述べた言葉を覚えているだろうか。命が大切なのも、戦争がいかに哀しいものかも、皆知っているのだ。平時では殺人は罰せられる。だが人同士が殺し合い、それが容認された、否、容認されている戦時下で最も人びとを苦しめたものは何だろう。苦痛、空腹、孤独、むろんそれもあるに違いない。けれど一番は「あなたが大切だ」という一言を、大切な誰かに言ってもらえなかったことではないだろうか。言ってもらえない環境だったのではないだろうか。戦地に赴く息子を見送る母、一途に愛した人に別れを告げる青年、何の感謝も口にできぬままに友を亡くした少女。伝え聞く話の中でしか触れることのない人々が欲した一言。実のところは分からない。しかし「命は大切だ」「戦争は非情なものだ」そんな言葉に対して「難しい」と言い、その先を考えないのであればせめて、「あなたが大切だ。」その一言を大切に、国境を越え、戦争など生まれなような人と人の強い繋がりを築くべきだと、私は考える。